

栄光

説教

『主とのつながりを喜ぶ』

ヨハネによる福音書15章1節～17節

東中通教会牧師 片岡宝子



経堂北教会に
2007年から
2010年3月
まで在職してい

ました。主任者である岸俊彦先生、教会員の皆さんにお世話になりました。長老会においては岸先生の右隣に座らせていただきました。教師試験を経て、按手を受けました。ここで、学びのための環境を与えていただいたと思っています。私の在任中、岸先生はマタイによる福音書の講解説教をしておられました。その時の礼拝体験が、今に生きています。今日一緒に聞きましたのはヨハネによる福音書の言葉です。マタイ福音書と合わせて読むと、よく理解できる部分があります。マタイには天の父について教えられる

説教・「主とのつながりを喜ぶ」	片岡宝子牧師…1
初夏の集い…	2
特集・平和を求めて…	4
説教・「生きた信仰」	岸俊彦牧師…6
西南支区婦人部報告…	7
長老のファイル…	7
牧師の書斎から…	8

弟子たちの姿が描かれます。主イエスの大宣教命があります。ヨハネにも弟子たちへの注目があります。父なる神がどういう方か、御子イエスが弟子たちの間に留まることによって、次々と明らかにされていきます。弟子たちが復活した主によって聖霊の息を吹きかけられて、世界に遣わされる姿も描かれていて、とても重要です。「私は(まことの)ぶどうの木」(15・1、5)と語られる箇所では、主イエスとつながる弟子たちの姿が、たとえによる教えによって視覚的に伝えられます。どのようなぶどうの木をイメージするのか人によって様々だと思いますが、ぶどうの木は肥沃な土地よりも、植物が育ちにくい乾燥したところでじっくり育てた方が、最高の実が

なるそうです。

大事なことは、このぶどうの木は豊かな実をつけるということ、神の御前にある、まことのぶどうの木なのだということ。「あなたがたはその枝である」(5節)。その枝は手入れされ、枯れません。幹は復活の命、永遠の命を与えるイエス・キリストの象徴です。

私たちの目から見ると「この木」と分かるというものではないかもしれませんが、言われることは、まことのぶどうの木である「私」につながりなさいということなのです。

ここには主イエスにつながることで神を知ること、また、神とつながっている人たちを知ることについてのメッセージがあります。岸先生から度々教えられたことは、「神のネットワーク」があり、私たちはつながっているのだということです。

現在、私は教団青年大会の実行委員をしています。そこで青年のために何ができるか考えています。目指しているのは「集まって礼拝すること」です。

なんだ、そんな当たり前のこと

かと思われるかもしれませんが、けれども礼拝は青年たち、若者にとっても大事です。全ての世代が神の御前であって、等しく、求める機会を与えられるべきです。

主なる神を礼拝することのできる時と、場所と、共に集う人が必要です。「集まって、何をやるのか？」を問われた時、「礼拝するのだ」と答えることができたなら、青年伝道の第一歩は成功だと思えます。礼拝が習慣化すれば、御言葉が身近になります。更には、求めることができます。そこから、若者らしい活動を、どんどんしたら良いと思います。求める機会を得ようとすることを、忘れてはなりません。

求めることと与えられること、信じることと遣わされることは表裏一体です。

ネットワークの網目が細かく広がっていく様子を、御言葉が正しく伝達され、主にある豊かさが語られる様子を想像してみてください。その豊かさを知る礼拝に皆さんも招かれています。主にあるつながりを喜びましょう。

初夏の集い

「メディアと伝道
—キリストのからだ
を目指して」

東中通教会牧師
片岡賢蔵

2007年に宝子牧師と結婚し

たことで、経堂北教会の交わりに
入っていただきました。当時はテ
レビの仕事をしていて、ギャラリ
ーで音響の奉仕をして、すぐ仕事
に向かうなど、忙しくしていまし
た。2010年に宝子牧師の着任

に合わせて、鎌倉泉水教会へ転会
しました。家族として牧師に接す
るようになったことで、信徒の立
場では見えていなかった牧師の働
き、信徒の働き、神さまの教会へ
の働きについて考えるようになり、
牧師としての召命に応えました。

その中で私に2つの危機が見え
てきました。世俗のメディアと、
教会の伝道の2つに生じている困
難のことです。今、メディアの信
頼は失墜しています。要因は、い
ろいろ考えられますが、インター
ネット等を通じて、個人が情報を

容易に発信することで起こる情報
の多様化が挙げられます。これま
で見過ごしていた情報に接する良
い面もありますが、あまりに情報
過多になって、自分に向けられて
いると感じる情報の摂取が難しく
なっているのです。情報の送り手
と、受け手をつなぐ信頼関係が失
われてしまったことによりです。

また、教会の伝道は衰退してい
ると言われて久しい状況です。教
会も情報の洪水の中に埋もれてし
まっている。教会はメディアを活
用して遅れを取り戻さなければと
いう声も聞かれます。

私は、この2つの危機について、
むしろ教会の伝道の業が、どう為
されているのか理解を改めること
で乗り越えられるのではと思っ
ています。そのヒントが、コロナ禍
で集うことを制限される中で示さ
れました。多くの教会がメディア
を用いて、離れた信徒を結ぶオン
ライン礼拝のあり方を模索しまし
た。新しいメディアの活用は礼拝
にふさわしいのか、皆さんも悩ま
れたことと思います。

私は、パソコン上で礼拝に集
う方々の顔が現されるのを見て、

ふつと経堂北教会の召天者記念礼
拝を思い起こしました。礼拝堂の
壁いっぱい飾られる召天者一人
ひとりの顔写真は、オンライン礼
拝に似ている！ いやむしろ、こ
ちらが先駆けではないかと。つま
り礼拝とは本来、見える地上の会
堂だけでなく、離れていて見えな
い天とつながるオンライン礼拝な
のだということ。私たちは先

に天に召された方々と共に、神さ
まが特別なまなざしを、この群れ
に注いでくださっていることを知
ります。人間は自分が見られてい
ると知るとき、成長することがで
きます。私たちも見つめ返そうと
するからです。まなざしの双方向
性が私たちをつくり変えていくの
です。聖書にある通りです。

「わたしたちは皆、顔の覆いを
除かれて、鏡のように主の栄光を
映し出しながら、栄光から栄光へ
と、主と同じ姿に造りかえられて
いきます。これは主の霊の働き
によることです」(Ⅱコリント3
・18)。神を礼拝するとき、私た
ちは、このことを確かめることが
できるのです。そう考えますと、
教会の交わりこそメディアのある

べき健全な形ではないでしょう
か。福音の送り手である神さまと、
受け手である人間が離れていたの
に、しっかりと結び合わされるこ
と、このために主イエスが媒介者
として働かれています。この主イ
エスとの出会いの物語を、私たち
が語り継いでいくことこそ、教会
が立つ地域への良い知らせを伝え
るメディアとしての使命です。

教会は長らく文書伝道の形で、
この使命を担ってきました。『栄
光』もその一つです。今は動画の
時代です。この良い取り組みは動
画を通して継続できるのではない
でしょうか。ビデオであれば、ど
んなに拙くても、素朴に祈る肉声
や顔の表情を伝えることができま
す。そうした素朴な礼拝者の姿を
見せるこ

とで、今
まで見え
ていな
かった教
会の宝を
分かち合
えるので
はないで
しょうか。



初夏の集いに参加して

6月23日、新潟・東中通教会の片岡宝子牧師、片岡賢蔵牧師をお招きして、初夏の集いが行われました。当日はあいにくの雨で出席者数が危ぶまれましたが、皆さん片岡ご夫妻のお越しを楽しみにされていて、主日礼拝は60名、午後の会も44名の参加となりました。

主日礼拝では宝子先生が「主とのつながりを喜ぶ」と題してヨハネ15・1〜17の説き明かしをしてくださいました。主イエスと弟子たちとの関係性、礼拝を継続することの重要性、今の私たちに「つながっている」証明を丁寧にお話してくださいました。

午後からは、初夏の集いではコロナ後久しぶりのお弁当をいただき、賢蔵先生による講演が行われました。「メディアと伝道」と題して、テレビマンとしてのご経験からメディアと伝道に生じている危機と、それを乗り越える方策をわかりやすく、見える形でお話しくださいました。例として、耳の不自由な方のためiPadで文字起こしのアプリを活用し、今ま

さに行われている礼拝説教を字で読み進める様子を映像を通して紹介され、教会のIT化が進められていることに驚きました。とかくIT弱者になりがちな高齢者もこうして遅れをとることなく情報を得ることができるとも。しかも一番必要な神様の御言葉。

また経堂北教会の召天者記念礼拝で天国の方々の写真が会堂に掲額されている景色は、コロナ以降社会の必須アイテムとなった（どこにいてもパソコンの中でつながれる）ZOOMと呼ばれる会議形式の先駆け、天国とつながるZOOMのようだと言われました。ここでも午前中の宝子先生の説教、「主とのつながりを喜ぶ」とことの1本の綺麗な道が示されていると感じずにはいられません。世の中には様々な情報が溢れている、でも私たちに必要なことは神様の土台にしっかりと立ち、信仰をつなげていくことだとメッセージをくださったお二人に感謝です。爽やかな初夏の集いとなりました。今後の東中通教会での活躍を心よりお祈りしています。

(牧内美和)

去る6月23日、初夏の集いが開催された。久しぶりに昼食を皆で囲んだ後、片岡賢蔵牧師に「メディアと伝道」のテーマで講演いただいた。

最初に、テレビマンから牧師への召命と経緯について語られた。メディアへの信頼性の低下、教会での伝道力の低下、それらは人と人、あるいは神と人をつなぐ媒介者がいなくなっているからである。しかし、御言葉が届きにくい危機の中でも、神様が働いていることを鎌倉泉水教会で感じ、教会で育ってきた者として、神と人との交わりをもう一度見つめ直し、執り成す者として自分を生かしたいと、献身の道へ進まれたとのことであった。

続いて、教会の内側でのメディア活用について語られた。教会でのメディア活用が遅れているという発想は捨て、自分たちがどうするかを考えよう、という話から、4つの観点で活用方法を例示いただいた。普段YouTube配信をしている身としては、「カメラは誰かの眼差しであるということを意識し、アングルや見え方を気

にしてみるとよい」、という示唆が響いた。

3つ目として、教会の外側へ私たちの姿を発信するための活用方法について語られた。教会や主となが本質は活字より動画の方がより伝わる、という例示は、キリスト教主義学校へのCS紹介にも生かせると感じた。

最後に先生は、スマホ等の映像メディアで教会活動を発信することで、今ここで伝道する私たちがいると伝えることができる、何より、教会には神と人をつなぐ主イエスという仲介者がおり、これは真のメディアである、と結ばれた。お話は映像や画像の例示が多く、参加者はイメージがしやすく、それぞれにメディア活用の様々な案が浮かんだのではないかと。一方、礼拝に集えない方とつながる媒体とするには、高齢者が自宅でタブレット等を操作できるのか、という問題も残るかを感じた。また、教会活動を発信するには、当教会での肖像権等の整備も避けては通れないため、今後議論が必要である。

(原 知子)

平和を求めて

ロシアのウクライナ侵攻や
ガザでの紛争は先行きが見通せず
中国の海洋進出や
北朝鮮のミサイル開発など
日本を取り巻く環境も複雑化しています。
終戦記念日を迎える今
平和を求める私たちが
できることは何でしょうか。



祈

千葉一恵

「終戦記念日を前に平和を求め
る私たちにできることは？」

この問いは重く、平和を願わな
いわけではないのですが、恥ずか
しなから毎年その日、多くの人の
祈りにそっと加わるのみの私で
す。

そして、『戦争を知らない子ど
も達』という歌が浮かんできます。
50年程前に作られた歌ですが、
自分も同じと、この終戦の時に祈
りと共にくちずさみます。

♪戦争が終って僕らは生まれた
戦争を知らずに 僕らは育った
大人になつて歩きはじめ

平和の歌をくちずさみながら
平和を祈らない人も願わない人
もないのではないのでしょうか。
でも、世界ではロシアとウクライ
ナとの戦争は続き、イスラエルと
パレスチナの紛争は解決が見えま
せん。その争いに世界は日々、揺
れ続けているのです。

『信徒の友』8月号で私は憲法
9条について改めて知ることがで
きました。齊藤小百合教授は、憲
法9条を持つ日本は武力に頼らな
い新しい道を示し、ロシアの軍事
行動を正当に非難できるのです、
と語っています。国のリーダーに
不安を感じる今、未来の日本を創
る子どもたちに平和の大切さ、戦
争の悲しさ、愚かさを伝え、本当
の平和を実現する人に育てること
が大切であり、急務ではないかと
心から思います。

1冊の絵本と出会いました。『へ
いわとせんそう』。文は詩人の谷
川俊太郎氏、絵はイラストレータ
ーNoritake氏。白と黒だけで、
「へいわのボク／せんそうのボク
／へいわのよる／せんそうのよる
(ページはまっくら)…」とペー
ジごとに対比するように書かれて
いて、ストレートにその違いが伝
わってくる絵本でした。人も自然
も神様が創られたありのままの姿
がいい！が感じられる優しい呼び
かけで絵本は終わります。
平和の大切さを感じ、戦争はし
ない大人へと、子どもたちみんな
が育ちますように。祈。

知らないことを伝えるために

諸橋鷹広

戦争映画史上最高傑作といえ
ば、ソ連映画の『炎628』だ。
85年に公開されたこの映画の原題
は「来たれ、そして見よ」で、黙
示録6章からきている。映画鑑賞
が趣味の僕は、しばしば人に映画
を勧めるが、この映画だけは誰に
も勧めたことがない。他の戦争モ
ノの作品と比べて、あまりにも異
質で、ここまで戦争が恐ろしく描
かれているものではなく、精神衛生
上よくないからである。観なきゃ
よかつたとさえ思った。第二次世
界大戦下、ドイツ占領下のベラル
ーシで起きた「ハティニ虐殺」を
基にした実話で、628とは、大
戦中にナチスによって焼かれたベ
ラルーシ国内の村々の数に由来し
ている。今でも覚えているのは、
村の教会に押し込められた人々
が、老人も子どもも、女性も赤ん
坊も皆、そこに閉じ込められて、
生きたまま火炎放射器で焼かれる

シーン。火炎瓶を持つドイツ軍は
笑顔で、まるでゲームに興じてい
るように狂っていた。人間の愚か
さと、恐ろしさが同時に描かれて
いる。この映画は史実を忠実に描
いているので、脚色が一切ないと
いうことも、さらに恐ろしい。

僕たちは、戦争を知らない。高
校生の頃、憲法9条について改憲
すべきか、護憲すべきかをクラス
を半分にして議論する授業があつ
た。当時はそんなことに全く関心
がなかったの、僕がどちらの立
場だったかも覚えていない。が、
授業の最後に「でも、当時戦争で
真つ先に駆り出されたのは、お前
らと同じ年頃の青年たちだったぞ」
そう言われ、急に恐ろしくなつた
のを覚えている。教科書や漫画、
映画でしか知らない。爆発の音も、
銃弾の速さも、炎の熱さも知らな
い。飢えや渴きも、光のない夜も
知らない。これから育つ子どもた
ちに平和な世界を受け継ぐために、
ちゃんと知って、ちゃんと伝えよ
う。かつて戦争が起こつたことを、
戦禍を生きた人々を、若き英霊達
を。僕たちは、戦争を知らない。
それでも、未来はきつと明るい。

平和を実現する

仲山孝樹

ここで改めて、「平和」という
言葉について考えてみることにし
た。辞書に載っている意味は、「戦
争がない」「世の中が安穏として
いる」だ。世界的な平和というこ
とについては「全ての人間が平等
に、幸せな暮らしを送る」という
ことが付け足されると思う。

今は、ロシアによるウクライナ
侵攻や、中東での宗教的な対立に
よる紛争などがあり、必ずしも全
ての人が幸せではないと思う。
テレビで、戦争に関する討論を
している番組があつた。その中で
「平和は自然にできるものではな
く、つくるもの」という主旨の発
言があつた。確かに自然に平和が
できるなら、苦労はしない。
平和の問題は、一人ひとりが大
きくことをしていくことが大切な
ことだと思う。一人ひとりの力は
微々たるものだ。それでも、一人
が小さな力でもあきらめず、でき

ることをしていく(声をあげてい
く)。すると、それに共感する人
が必ず現れる。

今、私にできることは神様に教
えられた「愛による平和」が実現
できるように、日々感謝し、祈り
つつ歩んでいくことだと思う。そ
れが平和な世の中の実現へ繋がる
と信じて。

フランチェスコの平和の祈り

主よ、わたしを平和の器と
ならせてください。

憎しみがあるところに愛を、
争いがあるところに赦しを、
分裂があるところに一致を、
疑いのあるところに信仰を、
誤りがあるところに真理を、
絶望があるところに希望を、
闇あるところに光を、
悲しみあるところに喜びを。

(後半略)

説教

『生きた信仰』

申命記6章4節～9節
ヤコブの手紙2章14節～26節

岸 俊彦

「私のきょうだいたち、『私には信仰がある』と言う者がいても、行いが伴わなければ、何の役に立つでしょうか」(2・14)。

ヤコブの問いかけを、私たちそれぞれが問うてみたらどうでしょう。ヤコブの問いかけはキリストの言葉を踏まえた問いかけです。「私に向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天におられる私の父の御心を行う者が入るのである」(マタイ7・21)。羊の衣を着た強欲な狼である偽預言者に対するキリストの警告です。私たちはまさか偽預言者ではないでしょう。

御心を示すのがヤコブの言うところの「自由の法」(1・25)です。キリストが私たちを、罪と死の縄目から解き放つてくださった自由です。私たちは「自由へと召されたのです。ただ、この自由を、肉を満足させる機会とせず、愛を

もって互いに仕えなさい」(ガラテヤ5・13)とパウロは語りました。ヤコブもこの自由を「隣人を自分のように愛する」ために用いるよう励まします。

具体的には、まず共に礼拝する兄弟姉妹に目を注ぎ、心を配ることです。礼拝には着る物もなく、食べ物にも事欠く貧しい者が出席していました。その人が必要としている物を与えず、口先だけで「安心して行きなさい」(ヤコブ2・16)と言うだけだとしたら、分け隔てなさらない主を礼拝する兄弟姉妹と言うことができるでしょう。それは善きサマリア人の譬え(ルカ10・25以下)に登場する祭司とレビ人と同じです。サマリア人は瀕死の旅人を「見て気の毒(憐れ)に思い」助けました。キリストは「あなたも同じようにしなさい」(10・37)と語りました。ヤコブなら「私には信仰がある

と言うなら、当然行いが伴います」と語るでしょう。主を礼拝し、主の憐れみの中にある兄弟姉妹なら、目の前の困っている人を助けようとするはずですよ。

キリストは、「私の弟子だということで、この小さな者の一人に、冷たい水を一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける」(マタイ10・42)と約束してくださいました。私たち兄弟姉妹一人ひとりは、キリストの弟子です。主を礼拝する兄弟姉妹に、水一杯を差し出すなら、必ず主が報いてくださいます。何かややこしい話ではありません。

ところが、私たちにとって、一杯が案外難しいのです。まして着る物、食べ物を分かち合うと なったらもつと難しいのです。

「安心して行きなさい」は、文字通りには「平安の内に行きなさい」です。ユダヤ人が別れるときに交わす挨拶の言葉「シャローム」です。シャロームは満ち溢れる状態を意味します。主の祝福を祈り、恵みを分かち合うからシャロームが生まれます。口先だけのシャロームはあり得ません。

12年間出血で苦しんだ女性は、キリストに触れ癒やされました。キリストは「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して(平安の内)に行きなさい。病苦から解放されて、達者でいなさい」(マルコ5・34)と声をかけてくださいました。シャロームと祝福されて彼女の新しい人生が始まりました。シャロームは、御国への旅立ちの時の祝福でもあります。口先だけのシャロームで、どうして私たちのまことの故郷、御国へ帰ることが確信できるでしょう。

私たちは礼拝に招かれ、命の御言葉をいただいて、祝福されて、この世へと遣わされて行きます。祝福された私たちが、主の祝福を隣人と分かち合うのです。信仰と行いではなく、私たちは信仰一本で生きるのです。主なる神に仕え、隣人を愛し、主なる神を愛し、隣人に仕えることができるのです。これが生きた信仰です。

たとえ死んだ信仰であっても、共に礼拝し、主に祝福され、生きた信仰に目覚めさせられます。罪人の私を招いてくださる主の憐れみが、悔い改めに導くからです。

西南支区婦人部報告

西南支区婦人部は、西南支区内、東京教区内、日本全国、世界の教会と交流し、共に学ぶことも活動の目的です。

私は、東京教区伝道部婦人会西南支区委員長です。この長い肩書きには、日本基督教団全国教会婦人会連合東京教区西南支区・東京教区伝道部婦人委員会西南支区・西南支区婦人部の3つの委員会が含まれておりますので、日本基督教団の中の、東京教区の中の、西南支区の婦人部の活動を西南支区の委員会は担っております。今年度の西南支区婦人部は、奉仕と教区担当委員が欠員して5人構成です。来年度以降は、3人のみにあります。

各教会の婦人会活動が減少し、月曜日の委員会・集会に参加できる方も少なくなり委員不足です。来年度以降の担い手が見つからない場合には、休会の準備に入ります。

現在は、隔月土曜日に委員会・集会を開催しております。委員会

西南支区内の教会訪問、総会の準備と開催が主な活動です。

それに加えて、東京教区伝道部婦人委員会の集会年2回と報告会・伊豆諸島伝道懇談会への任意参加、全国教会婦人会連合の全国委員研修会任意参加、アジア学院学生のためのホームステイプログラム・世界祈禱会にじのいえ信愛荘チャリティーコンサートへの協力等が西南支区以外の活動です。

全国教会婦人会連合は自主独立の活動をしておりますため、各教区・各支区・各教会からの献金で支えております。経堂北教会はルデヤ会総会の席上献金を自主献金としております。自主献金は全国教会婦人会連合の自主活動を自主的に支える献金です。支区でまとめて、東京教区に集めて全国教会婦人会連合に献金しております。このように西南支区の委員会は西南支区だけの活動ではなく、休会するためには多くの課題を解決しなくてはなりません。休会せず活動が続けられるように、委員が与えられることを皆様のお祈りに加えてください。(河野昌子)

長老のファイル

連日の猛暑は災害と呼んでも差し支えないほどです。熱中症警戒アラート発令時の礼拝出席は、適切に熱中症対策を講じるか、ご自身の体調を踏まえてオンライン配信などの活用もご検討ください。新型コロナウイルスも流行しており、取りやめていた礼拝中の換気も一部再開しました。ご自身やご家族の体調の変化にご留意ください。

長老会では引き続き、次年度の牧師交代を見据えて様々な整理を図っています。愛唱讚美歌・愛誦聖句の調査と顔写真の更新をお願いしています。これは、松谷祐二先生が教員を理解し、牧会する上で重要な手がかりとなるでしょう。また、今後の行事などの持ち方については、教勢の減少や教員の高齢化による担い手不足を考えると、手間や負担を減らした無理のない運営が不可欠です。コロナ禍前のようなバザーや愛餐会の開催を願いつつ、あくまでも礼拝を第一として、行事などによる伝道は、その都度身の丈にあった方

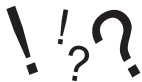
法を考える必要があるでしょう。

教会財政に目を向けると、最終退出時に照明やエアコンを消す、不要な印刷物を出さないなどの細かい工夫も疎かにできません。時間の使い方も同じです。一例ですが、定例長老会の開始時刻も各長老の事情を勘案しながら、昼食後0時半にしたり、15分早めてみた

り、礼拝後すぐに戻したりと、最適な時間を模索中です。新長老の就任を機に、奉仕にあたる長老の服装に関して、各人の常識に任せる旨を再確認しました。その日の気候や礼拝後の予定、個人の信条などを踏まえて各人の判断に委ねています。教会員の礼拝奉仕も再開していますので、参考になさってください。

変わるもの・変えるべきもの。変わらぬものと様々ですが、何事も主により頼みましよう。「あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしてください。心を新たにしてください。何が善いこと、何が悪いこと、何が神の御心であるのか、何が悪いこと、神に喜ばれ、また完全なものであるのかをわきまえるようになりなさい」(ロマ12・2)(原良介)

個人消息



牧師の書齋から

8月末につくば市へ転居するため、日々準備に追われています。転居先が見つかり、牧師館全面改修工事を9月から予定通り実施できます。教会員のご厚意で工事期間中アパートの一室を借りることができました。週に2日は泊まることができます。案外仕事に追われ、ずっと泊まっているかも知れません。毎日夜中まで牧師室にこもっているかもしれません。とも

かく9月になってみないと分かりませんが、この年齢で少しワクワクしています。

それにしても、転居先を探すにしても、引越の準備をするにしても、引継ぎをするにしても、7歳という年齢だから出来るのだと思います。これ以上年老いていたら何もかも難しくなっていたことでしょう。何事にも時があることを感謝しながら再認識しています。

転居先には夫婦二人で隔週出かけています。手続きや、電化製品を揃えたり、多少の荷物を運んだ

掲示板



○振起日礼拝 9月1日

説教「自由で気前の良い神」マタイ 20・1-16
 饒平名丈伝道師（カンバーランド長老キリスト教会泉伝道教会）

編集後記



▽パリオリンピックが始まりました。「平和の祭典」のはずがオリンピック休戦は守られていない現実。開催期間中、テロが起きないように切に祈ります。（酒井）

「栄 光」2024年8月号
 日本基督教団 経堂北教会
 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-21-11
 電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
 牧師：岸 俊彦
 編集：栄光編集委員会
 Email：kyodon@nifty.com
 HP：http://kyodokita.life.coocan.jp

りしています。地目は山地で、家の外は市街化調整区域ですから、塀の外は夏草に覆われています。行くたびにびっくり。周りの家も同じようなので、だんだん慣れてきて気にならなくなりました。

リサイクルが世の流れと思っていましたが、無料で引き取ってもらえればまし、というのが実感です。高校生の時から購入した文学全集は、リサイクル・ゴミとして出すほかなさそうです。横文字の注解書は、さすがにゴミでは情けないので、年下の牧師たちに何とか引き取ってもらっています。も

う読むことのない神学書はこれから手をつけます。教会の図書に入れたら読んで貰えそうな神学書や信仰書があるとよいのですが。

粗大ゴミ持ち込みの手続きもしました。1回10点ですから、これから毎週末、船橋粗大ゴミ中継所通いです。この機会に断捨離を考えないわけではないのですが、仕分ける時間がありません。どうにか引越に間に合うよう荷物をまとめたいと思います。妻はほぼ片付いたと言っています。（岸 俊彦）